

## サービスマーニングを振り返って

社会福祉学部社会福祉学科 2年 長尾 由香

活動先：NPO 法人 共育ネットはんだ

クラス：野尻 紀恵 先生

### 1. サーマーニングを通しての成長や気づき

私は2年の夏に6日間、NPO 法人共育ネットはんだにてサービスマーニングを行った。活動以前はサービスマーニングのクラスに進みとても後悔したことを覚えている。

初めてNPOの代表の方と顔合わせをした時はとても緊張しており、何を目的に学ぶのか、目標など頭の中には無く、とにかくこの場を無事に終えることしか考えていなかった。初めの顔合わせでは、NPOに企画を提案するというので、グループで話あった企画を代表の方に伝えた。しかし、よい返事を貰うことができなかった。まずこの時点でなぜ企画を受け入れてもらえないのか、ということが頭の中を巡り、焦りを感じていた。そのとき、去年サービスマーニングを終えた先輩方に意見や助言を頂く機会があった。とにかく今の私の不安を取り除きたく、たくさん質問をしたことを覚えている。先輩は焦りを感じることはない。ゆっくり考えていけばいいと教えてくださった。そしてサービスマーニングの初日を迎えた。初めてのサービスマーニングは定例会ということで、共育ネットはんだのスタッフさんと顔合わせをすることになり、活動の理念や振り返りなどに立ち合わせてもらった。そしてついに2回目の企画を提案したが、またも企画が通ることはなかった。その時もなぜだろうと考えていたが企画が通るのは大分先になることになった。

2回目のサービスマーニングは、共育ネットはんだに子どもたちを預ける保護者の気持ちを知るところから、NPOの学びが始まった。私が思い描いていた障がい児を育てている保護者は苦勞が絶えず、社会から抑圧され、暗い方が多いのかという偏見を持っていた。しかしそれは間違っていた。どのお母さんも子どもへの愛に満ち溢れていて、大変だったできごとも笑顔で話してくださった。ここで保護者の方の現在の気持ちを知れたことは今後のサービスマーニングの方向性や企画などに大きく役立った。

3回目のサービスマーニングで初めて当事者である子どもたちと関わった。初めはどの程度まで叱っていいのか、どう話せばいいのかわからず戸惑ったが、適切にNPOのスタッフさんの指導のおかげで子どもたちと共に私も学ぶことができた。そこで学んだことは子どもたちとの接し方だけではなく、子どもたちにはそれぞれ個性があり、できること、できないこともさまざま、それぞれを理解してあげることであった。これらの学びを踏まえて企画をまたグループで考えてみると、私たちはまだ、当事者である子どもたちと関わってもいないのに企画だけ、進めていることに気づいた。これをNPOの代表の方はわかっていたのかもしれない。それからというもの、学生企画の主体者は子どもたち、そして保護者の方たちと決め、残りの活動を行いつつ、毎回の子どもの様子を見ながら学生企

画を考えていった。そこで一つの企画が上がった。それは子どもたちが日ごろお世話になっている保護者の方に金メダルを作り、感謝の気持ちを言葉にして述べるという機会を設けることだった。これは子どもだけが主体では考え付かなかったことであると考えている。それからというもの、周りの協力や地域の方の協力のもと、企画の準備を行った。そこでもう一つ学んだことがある。それは人を頼り、頼られる存在になるということだった。学生企画ということで、自分たちだけで頑張らないと、と思い込んでいたが当日子ども達全員の性格や行動を把握しきれない私たちにとって、一人一人のベストな時間帯や作業方法など考えてもいなかった。しかし共育ネットはんだでボランティア活動をされている「白夜」の人たちのおかげで子どもたちの一人一人の行動範囲、性格考えた上でサポートしていただいた。これらの企画は地域の方にも協力していただきとても感謝しているとともに、「白夜」の方たちにも協力していただき、今思い出しても感謝しきれないほどである。そのおかげで無事に金メダル作りが終わり、いよいよメダルを渡す時間帯になったメダル授与のときは普段見せない子どもの表情や、涙を流すご両親などを見ることができ、初めて企画を立ててよかったと思った。

これらの企画までの流れの中の気づきや企画を共に周りの人と考えること、自分の思いをしっかりと人に伝えること、など細かいところも成長できたサービスラーニングであったと思う。最後に私はサービスラーニングのゼミに進めてよかったと感じている。

## 2. 活動を通して見えてきた地域活動や社会活動

私がサービスラーニング活動を行った共育ネットはんだでは地域の人との交流やつながりがとてもあったと感じている。NPO が地域に存在していても地域のつながりや行政のつながりなどなければやりたい事業も進んではいけない。そしてふと考え思いついたことが、災害時に何らかの困難を抱えた子どもや高齢者、障がい者の方たちはどうするのだろうということだった。私がサービスラーニングを行った NPO の障がいを持つ子たちのサポートが震災時にも伝わるのかと考えたところ、やはり、世間一般的な人をベースに復興や支援が進んでいくと考える。そしてもし震災が起きた時 NPO がもつ役割とはなんだろうと感じ始め、震災時における NPO の役割について研究することにした。震災での避難や復興などでは行政が主体となるが、高齢者や障がい者、など広い範囲まで考えているのだろうかと思う時がある。そこで阪神淡路大震災と東日本大震災のボランティア、NPO 法人の功績、行政・企業・NPO の連携について調べた。そこでわかったことは、NPO 法人は災害ボランティアの NPO とは限らなくても地域のニーズに応えるために行政や企業そして他県の NPO と連携し、復興を行ってきたことが明らかになった。そこであげられた大切なことは NPO 同士の連携、行政との連携、企業との連携である。これらの連携により資金面や力の部分、物資などそれぞれのニーズにあったサポートができたという。

NPO にとって理念や考え方は違うが万が一に備え、地域に生きるものとして他の機関と連携をとることは今後とても大切になってくると思う。

これらのつながりがあれば、万が一の時だけではなく、地域における一つの NPO として  
困難があった時に力になってくれると考えている。